

あなたの暮らしをサポートします

生活費が足りない、なかなか就職が決まらない、病気で働けない、住む場所を失ってしまいう、家族と上手に向き合えないなど、生活や仕事に困っている方、ひとりで悩まず解決の糸口を一緒に考えてみませんか？

ご相談は無料、秘密は厳守しますので、どうぞお気軽にご利用ください。

住居確保給付金と就労支援で、住居を手放さず就職が決まった。



家計の見直しを考えてくれて、生活を立て直すことができた。

佐倉市生活困窮者自立支援事業共同事業体

佐倉市役所生活困窮者自立相談支援窓口
〒285-8501 (暮らしと仕事の相談窓口)
佐倉市海隣寺町97 佐倉市役所4号館地下1階
TEL 043-309-5483
FAX 043-484-5020
E-mail seikatsu@sakurashakyo.or.jp

佐倉市役所
生活困窮自立相談窓口



・相談員が訪問で不在の場合がありますので、来所相談をご希望の方は事前にご連絡を頂きますと確実です

・出張相談も行います



<開所曜日・時間> 月曜日～金曜日 8:30～17:15
(土・日・祝、12月29日～1月3日はお休み)

自立支援相談窓口（ご相談の流れ）

① お困りごとの確認

② 一緒に解決プランを作成

③ 公的制度やサービス活用

問題解決へ

◆就労準備・訓練支援◆

職場実習などにより、就労前の準備や実際の就労を通じた訓練等の支援を行います。

◆学習支援◆

困窮世帯などの子どもの学習支援を、ボランティア団体と連携して行います。

◆家計相談支援◆

家計収支の改善や管理方法、債務整理などの支援を行います。

◆公的支援◆

生活保護やハローワークによる就労支援など、各種支援制度の活用。

◆準公的支援◆

社協による各種貸付など、その他の支援制度の活用。

生活困窮者自立支援制度を利用して生活を立て直したケース

長期ひきこもりのケース

Aさん（30代）は両親と3人暮らし。高校を中退後、一時アルバイトを経験したもののすぐに辞めて家にひきこもるようになりました。父親（80代）は無口でとても厳格な性格で、母親（70代）は、もともと病気がちで足腰が弱いものの、身の回りのある程度対応可能です。父親の厚生年金が家計の中心になっており、母親が管理しています。

◆社会参加から就労へ◆

私（Aさん）は、高校を中退後、アルバイトをしていましたが、アルバイト先でのトラブルで辞めてからは、母親を介護することで、自分の役割がここにあると思うようになり、特に就職する必要性を感じなくなっていました。しかし、支援員と何度も話すうちに、近くにある「男性介護者の会」に興味を沸かせてきました。試しに行ってみたところ、互いの苦労をねぎらい、自分の存在を認めてもらえる仲間に出会うことができ、やがて一緒に活動するようになりました。徐々に自信を取り戻し、今度は支援員に、ひきこもりの人などに理解のある飲食店を紹介してもらい、働き始めました。始めは、環境に慣れずに休みがちでしたが、職場の理解も得ながら徐々に休みも減りました。母親の介護は介護保険を申請し、ヘルパーさんに来てもらっており、今では充実した毎日を送っています。

求職者への支援のケース

Bさん（20代）は、高校時代にいじめに遭い、同年齢の人間関係を避けがちになりました。そのようなこともあり、県外の専門学校に進学し、卒業後は飲食店に住み込み就労しました。しかし、職場でのトラブルをきっかけに、職場を無断で休みがちになり、解雇されてしまいました。その後も就職に結びつかず、求職活動も途切れるようになってしまいました。

◆住居確保給付金と早期の就労支援◆

私（Bさん）は貯金が少なくなり、このままではアパートを出ていかなければならず、切迫した状況にありました。支援員からは、まずは安定した住居を確保する必要があるということで、住居確保給付金制度の説明を受け、給付金支給の決定を受けることができました。就労については、私には調理スキルがあったことから、飲食業での就労を望み、職場の中で、仕事に必要なスキルや職場内での対人スキルを身につけることを目標とし、3ヶ月間試用雇用で働きました。始めは、スキル取得とコミュニケーションに苦労しましたが、支援員が定期的に職場に訪問し、相談に乗ってくれたこともあり、今では、人の役に立ちたいという思いから、正社員になることを目標に仕事に励んでいます。